

令和2年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第5学年

| | 授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題) | 具体的な授業改善策 |
|----|--|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に大まかには捉えることができているが、読み取りが浅く、自分の考えが広がらなかつたり、考えをもっていたとしても、うまく表現することができなかつたりする。読みを深め、自分の考えを広げて表現していく力を育成していくことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 直接的な描写だけではなく、暗示的な表現の仕方にも注目することで、読みを深めていけるよう授業を展開していく。 自分の考えを一言で表している児童から、より具体的に考えを書いている児童へという順で計画的な指名を行うことにより、表現の仕方を広げていけるようにする。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うことが課題である。 事実の読み取りで終わってしまう児童が多く、「社会的な思考・判断・表現」の力が弱い面が見られる。資料等をもとに、客観的な事実に基づいて考えを組み立てていく力の育成が課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習する目的が児童にとって明確になるような学習問題を、児童主体で設定する。そのために、学習問題を設定するための資料や発問を吟味し、児童の疑問が引き出せるものを用意する。 学習問題を解決するための「調べる時間」においては、調べる過程を二つに分ける。調べ①では、資料から客観的な事実を読み取らせ、調べ②では、新たな資料提示や発問をすることで、児童に揺さぶりをかけ、より深く社会的事象の特色や相互の関連、意味などを考えられるようにする。 |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 筆算を乱雑に書いたり消したりし、どのように計算しているのかがわかりづらい様子が多く見られる。思考の流れを振り返ることができるノートを書けるようにしていくことが課題である。 課題に対して自分の考えを広げていく中で考えがねらいからずれていってしまう児童がいる。めあてに正対した考えを書けるようにしていくことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 計算したものを消さずに残していくように指導していく。 各コースでの毎時間のめあてを検討し、児童が学習の見通しをもてるようにする。既習事項を振り返りながら、自力解決できるようにする。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 予想を立てるときに、既習事項や生活経験を根拠にして、どうしてそのように予想を立てたのかを考えたり、表現したりしていくことが課題である。 児童が振り返りを書くときに学習の感想やわかったことを書くのみになっている児童がいる。自然事象を日常生活と関連付けて書けるようにしていくことが課題である。 事前準備や予備実験などを計画的に行い、学習につなげていくことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の導入段階で、既習事項を確認したり、身近な日常生活での経験を共有したりすることで、予想を立てられるようにする。 視点を明確にし、繰り返し児童に指導していくことで、学習したことを日常生活につなげていけるような振り返りを書けるようにしていく。 年間指導計画をもとに、見通しをもって準備し、計画的に予備実験をしていく。 |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> どの領域においても、児童が目的をもって主体的に取り組めるめあてを立られるようにすることが課題である。 技能の習得に関して、自分の課題を見いだせるようにすることが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを明確にし、そのためにはどのように学習していくのか、どのようなめあてを立てたらよいのかを吟味していく。 技能の習得に関して、個に応じた指導の時間や児童同士で見合う時間を十分に確保していく。 |

| | | |
|-----------|---|--|
| <p>道徳</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値に対する自分の考えを表現できる児童と表現が苦手な児童がいる。価値について深く考え表現していこうとする力を養うことが課題である。 ・教師側の道徳的価値の理解が浅く、授業中にねらいとする価値からずれてしまったり、価値に関する思考が深まらなかったりすることが多い。毎時間における、ねらいとする道徳的価値を的確に理解し、それからずれることなく一貫した指導を行っていくことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ○机間指導で児童の考えを見取り、計画的な指名で表現が苦手な児童の考えも取り上げていく。 ○学習指導要領の内容について理解を深め、教材と照らし合わせて、毎時間分のねらいとする道徳的価値を明確にし、学年会において共有する。そして、それをもとに発問構成やその他指導の工夫を考えていく。 |
|-----------|---|--|